

富山県高岡市 水田を活用したナタネ栽培事例 (戸出町農業協同組合)



1. 地区の概要

高岡市戸出地区は、市の南部に位置する平地農村地帯であり、水田面積は約1179haである。冬期間を除き比較的温暖な気象条件下にあり、良質米や新鮮な野菜等を生産する食料供給基地として重要な役割を担っているものの、近年は工業団地や住宅団地等が造成され、混住化が進行している。

農業経営については、水稲作を中心とした主穀作経営が多く、農家1戸当たりの平均農用地面積は1.47haと市平均(0.8ha)を上回っている。水稲以外では、ナタネを始めとして、大豆・大麦・チューリップ球根、白菜等が栽培されている。

2. ナタネを導入した経緯

戸出町農業協同組合が主体となって新たな土地利用型作物の導入を検討し、高岡農業改良普及センターの助言を受け、平成10年に、ナタネを導入することとなった。

特に、戸出町史によれば、地区においては古くからナタネが栽培されており、地名の由来も「灯油田」が訛って「といで」となったとされている。また、従来ナタネ油には心臓疾患が心配されると言われるすエルシン酸が含有されていたが、無エルシン酸品種「キザキノナタネ」「アサカノナタネ」が育種されたことが導入の背景となった。

3. 水田活用におけるナタネ産地づくり

(1) ナタネ栽培のねらい

第二次世界大戦後、我が国のナタネ栽培面積が増加し、昭和32年には26万haに達したものの、輸入自由化によって国内の栽培面積は減少し、現在、菜種油の国内自給率は0.04%で、ほとんどを外国産に依存する状況となっている。このため、「安全で安心な農作物」を供給する観点から消費者需要に見合った商品開発を図った。

また、菜の花は4月上旬から約1ヶ月間の長い開花期間があり、地域の観光資源として都市と農村交流活動により地域活性化を図ることを目標とした。



(2) 栽培・加工の取組み

平成10年の秋にはじめてナタネの新品種を導入し、1.1haの試験栽培を実施した。取組みに当たっては、「といで菜種研究会」を設立（現在は菜種生産者協議会に改組）し、栽培技術の研鑽に努めるとともに、農協の振興計画にも位置付けながら重点的に振興を図ってきた。

ナタネの生産・出荷の推移

区 分	H11年	12年産	13年産	14年産	15年産
作付面積(ha)	1.1	3.8	13.1	23.5	19.6
農家戸数(戸)	3	5	15	26	26

平成13年度には国のアグリベンチャー支援事業を活用し、農協が事業実施主体となって、搾油プラント（事業費20,000千円）を整備した。この搾油施設導入により菜種油が地域の新たな特産品として商品化し、生産・加工を一体化することで高付加価値化することが可能となった。製造方法は、圧搾法とし、一番搾りの香気の高い食用油として「健康・本物志向」の消費者ニーズに対応した商品とした。

商品の販売は農協が実施し、農協として初めて全国組織「良い食品づくりの会」に加入し全国有名デパート等を通じて流通・販売している。

搾油プラントの概要

主要ラインの流れ	煎煮 = 搾油 = 精油 = 沈殿 = 瓶詰め = 袋詰め（油カス）
搾油能力	原材料500kg / 日の搾油、150kg / 日の菜種油生産
設置場所	戸出農業協同組合 北般若支所内

4. 地域振興及び消費拡大に向けたイベント等への取組み

本地区内にはもともとチューリップ等の栽培が行われており、春先には花の絨毯が見られたが、新たにナタネを集団栽培することにより、地域おこしの起爆剤とすることを企図し、平成13年に商工会・地域自治会・体育協会も加わって地域ぐるみで「菜の花フェスティバル実行委員会」が組織された。

同年4月29日に第一回菜の花フェスティバルを開催し、マラソン大会、モデル撮影会やステージコンサート等イベントの企画や地元特産物の販売等により、菜の花を通じた消費者等との交流が実施され活況を呈したことから、フェスティバルは毎年開催されることとなった。平成15年のフェスティバルでは、来場者は約7,000人にのぼっている。

